

センサー機能でみんなが安心できる介護を

小規模／大規模

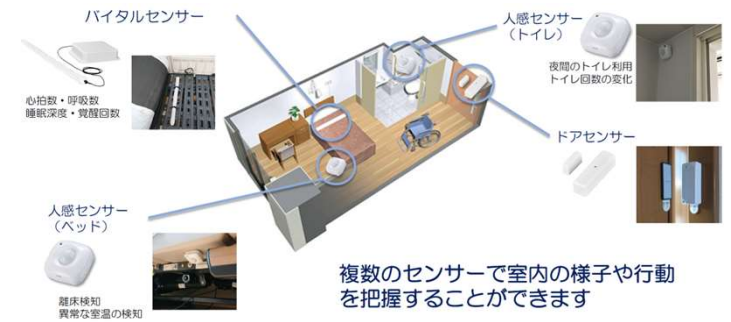
介護

技術/サービス概要

実現する地域社会のイメージ

- 慢性的な人手不足の介護施設の生産性向上実現**
 多種多様なセンサーを設置し、得られたデータをクラウドで解析、安否確認やトイレのうずくまりなど状況把握、異常検知を行なう。介護職員の死角を無くし、高齢者の重大事故防止・介護職員の負担軽減を実現しつつ、施設現場の数値化を行い、センサーの膨大なデータからケアの評価や職員の気づきをサポートするシステムである。
- 点在する高齢者宅の遠隔見守り**
 在宅要介護者は、交通手段が限られ、外出機会が少なく、適切なタイミングで適切な医療サービスを受けることもできないことが多い。このため、設置されたセンサーで、生活リズムやバイタルデータの異変の兆しを検出し、適切なタイミングで介入することで、訪問ヘルパーの負担を減らしつつ、高齢者のQoLを維持する。災害時においても、高齢者の在宅状況を確認できる。

ネットワーク環境不要、Wi-Fi不要
 非接触センサーで簡単設置
 電源だけで導入可能



技術/サービス情報

| | |
|-------------|---|
| サービス分野（大） | 介護 |
| サービス分野（小） | 遠隔見守り |
| サービス購入者 | 島内事業者 |
| サービスの概要 | 介護職員にとって負担となる夜間見守りなどを、ベッドセンサーを使うことで負担軽減 |
| サービス利用（受益）者 | 島民 |

| | |
|----------------|--|
| サービスにより期待される効果 | <ul style="list-style-type: none"> 介護従事者の負担軽減（心理的負担・身体的負担） 要介護者の異変検知によるQoL維持 |
| サービスの特性・優位性 | <ul style="list-style-type: none"> 既存のベッドに装着することで利用が可能 |
| 対応可能な地理特性 | <ul style="list-style-type: none"> 介護施設がある・点在する高齢者宅がある地域 |

センサー機能でみんなが安心できる介護を

小規模／大規模

介護

税別価格（参考）

| | イニシャル | ランニング (月額) |
|--------|-----------|---------------|
| 高齢者見守り | 148,500円～ | 2,160円～ |
| 介護施設 | 183,000円～ | 3,300円～ |

※補足
ネットワーク環境不要 電子看板機材・スマートフォンはオプション 設置作業・導入トレーニング 別途お見積り

無料トライアルの有無

有

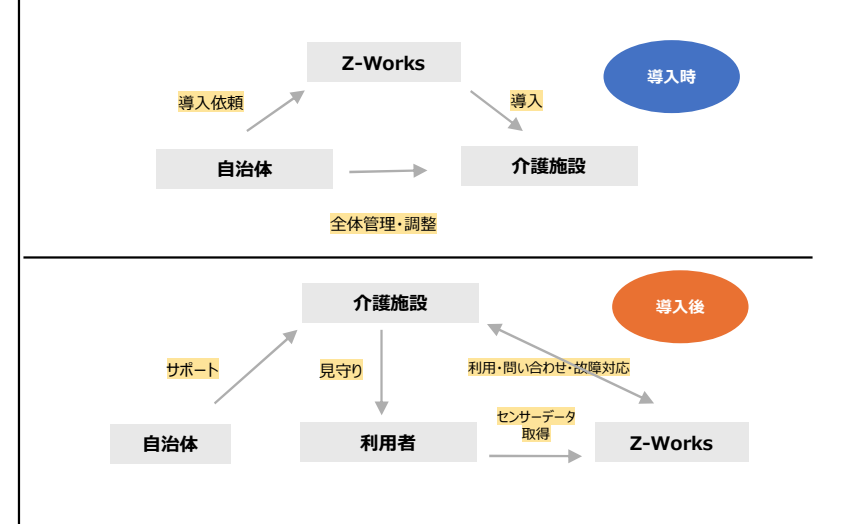
購入までの所要期間
(参考)

2か月程度

その他
(補足事項及び注意事項)

- ・入所者にとっての機器利用の不安解消が必要
- ・離島の場合は翌日対応ができない可能性もあり、機器導入後のメンテナンス体制・連携については検討が必要（機器の故障、設定変更など）
- ・継続的な管理・運用を行うためには、ITリテラシーがある人材を確保できるとよい

サポート体制
および関係者
(導入時・導入後)



企業情報

| | |
|--------|---|
| 事業者名 | 株式会社Z-Works |
| 所在地 | 東京都豊島区高田2-17-22 目白中野ビル6F |
| 設立年 | 2015年 |
| URL | https://liveconnect.jp |
| 問い合わせ先 | sales@z-works.co.jp |

センサー機能でみんなが安心できる介護を

小規模／大規模

介護

技術/サービスの導入実績

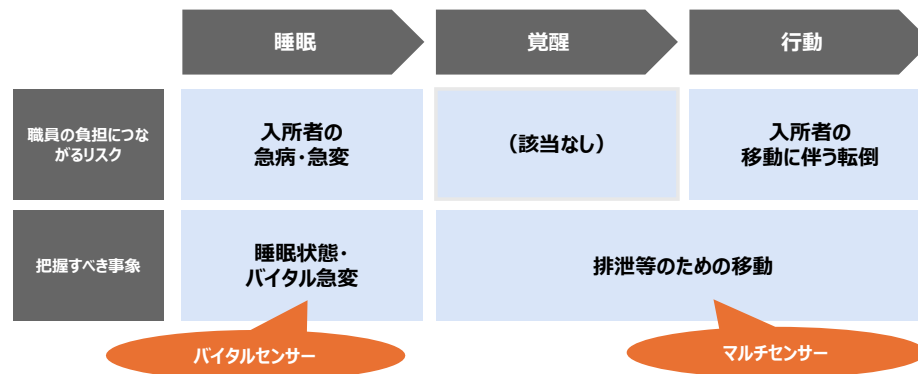
離島での導入事例

島根県隠岐郡海士町／中ノ島／群島型属島

（人口）2,267人（R2 国調）

複数のセンサーを活用することで下記のような対応が可能となり、介護職員の心理的負担・身体的負担を軽減する。

- ・入所者の睡眠状態やバイタルが正常であることをサイネージから一元的に確認し、職員の目視確認を減らす。
- ・転倒リスクにつながる移動を事前に通知することで、転倒に対する職員の不安を解消する。



導入自治体・利用者からの声

○導入した上での評価ポイント

- ・入所者の様子（睡眠状態か、離床しているかなど）の確認をバイタルセンサーのデータで代用し、職員が頻繁に確認することを防止できる。特に、感染症によりレッドゾーンを設ける際に、便利であった。
- ・離床を通知するマルチセンサーについても有用性を評価している。従来から設置しているマットセンサーと組み合わせることで、マットセンサーを避ける入所者についても検知できる。

○今後の活用の可能性

- ・センサーから得られたデータを根拠として活用することで、事務作業の負担を軽減できる可能性がある（看取り加算の事務作業等）。
- ・サイネージから各ベッドの様子がわかるため、在宅介護での利用、介護施設職員のバックアップ支援としての利用の可能性はある。

離島での導入実績（全国での実績）

3自治体（全国：7自治体）